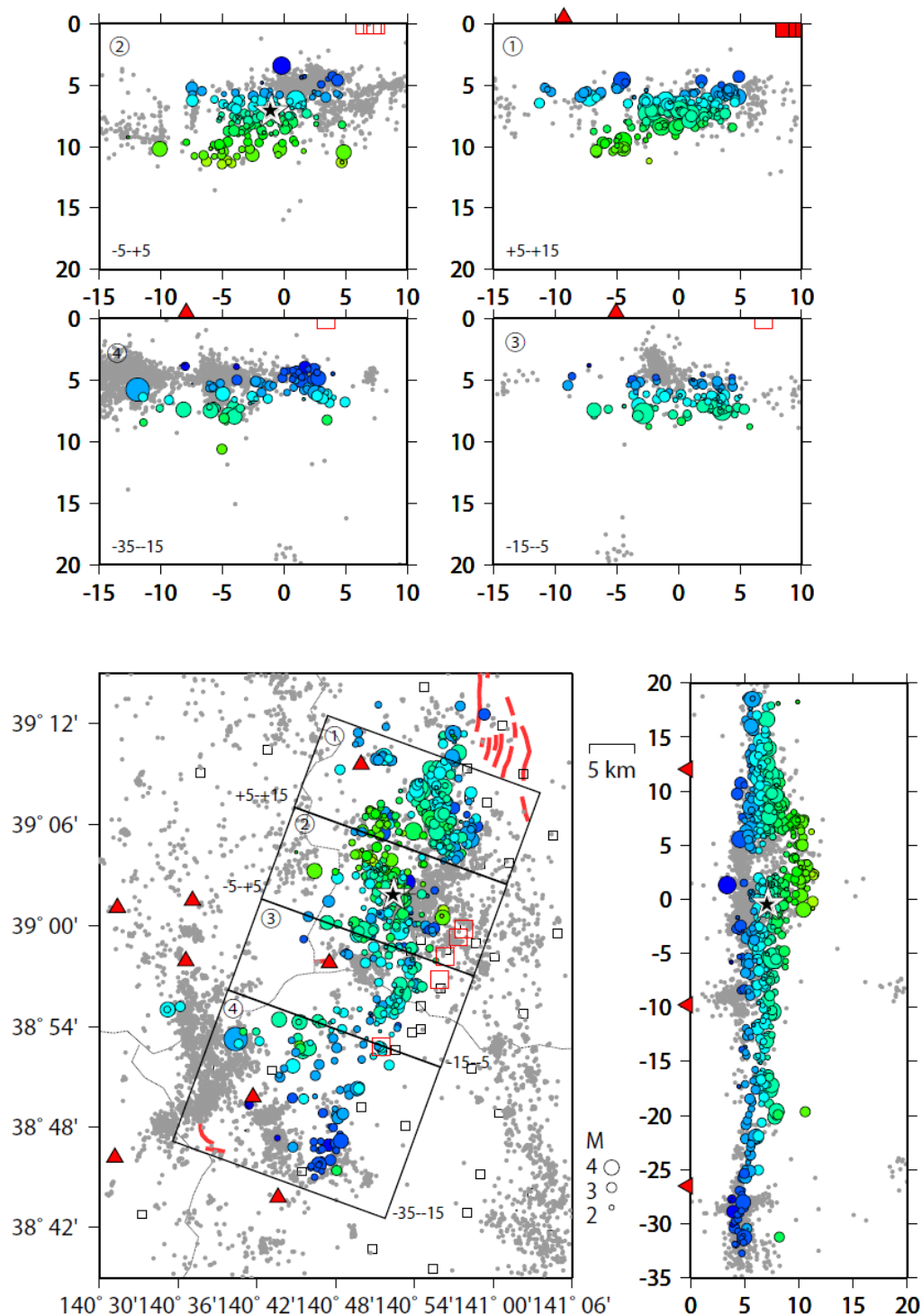


2008年岩手・宮城内陸地震緊急観測グループによる余震分布



臨時観測点も含めて、利用できるデータを全て加えて、DDTモグラフィ法で震源決定した結果を示す。構造は岡田・他(2008;連合大会)である。

上図:西北西—東南東方向の鉛直断面図, 右下:余震分布に沿った北北東—南南西方向の鉛直断面図, 左下:平面図。断面図中の赤色四角は出店断層の位置, 赤線四角は地表地震断層の位置。

黒星:前震(08時01分と11分), 白星:本震(08時43分)を示す。そのほかの色○は余震(6/14-6/17)を示す。色は深さを示す。灰色の小●は1997年から本震発生前までに発生した地震を示す。赤△は第四紀火山を示す。

謝辞:本研究は防災科学技術研究所 Hi-net・気象庁によるデータを使用しました。また、原子力安全基盤機構(JNES)が平成19年度、20年度に実施した内陸の活断層調査に基づく震源断層評価手法の検討事業で取得されたデータを使用しました。